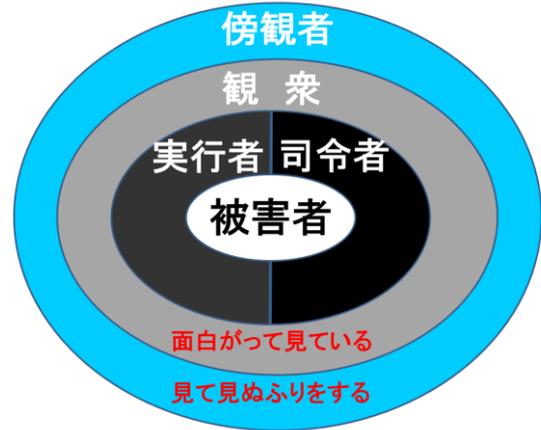


# いつか 必ず きっと

いじめゼロ学年集会を行いました。いじめはみじめな行為です。

6月12日(金)の6校時に、学年でいじめゼロ集会を行いました。いじめは犯罪です。犯罪行為なのに、トイレのような密室で行われるのではなく、いじめが発生する場所で圧倒的に多いのは、人目に付きやすい教室なのです。犯罪行為が人目に付きやすい場所で行われているにもかかわらず、被害者を取り巻く恐ろしい構造が、いじめをすぐに終わらなくさせているのです。いじめは「被害者」と「実行者」の関係だけで成立するものではありません。実行者を操る「司令者」、いじめをはやし立てる「観衆」、無関心を装っていじめを許している「傍観者」が被害者を何重にも取り巻き、被害者を孤立させるのです。



ただ、こういうことを知識として理解するだけでは、いじめをなくすことはできません。いじめと思われる現場に遭遇したとき、それを、自分に関係のない映像として無関心に「見る」のではなく、やられている人の気持ちを「感じる」ことが大切なのです。いじめられている人から発せられる言葉を「聞く」のではなく、発せられない心の叫びを「聴く」ことが大切なのです。知識を身につけて「いじめ」はだめだという「気づき」だけではなく、絶対に許せないことだという感情が伴った「想い」を持つことが大切なのです。「感じる」にも「聴く」にも、「想い」にも「心」が含まれています。「いじめ」を無くすことができるのは、知識ではなく心だと考えます。

そんな心を身に付けるために、普段の生活から自分の意見を堂々と言う、自分の意思で判断し行動することを意識して生活してもらいたいと思います。集団生活をしている以上、いじめはどの学年にも学級にも起こる可能性があります。いじめは自然に「なくなるもの」ではないからです。「なくすべきもの」なのです。いじめは「許さない」、いじめがある学級・学年は「おかしい」「嫌だ」「なんとかしたい」「良い学級・学年を作りたい」。いじめゼロ集会が、そういうことを感じられるきっかけになってもらえれば良いなと思います。

今日の授業を受けた感想は、いじめは絶対にやっちはいけないことだと思いました。ひとの命を奪うようないじめは絶対にしないと思いました。

[1組 黒川 竜椰さん]

いじめゼロ集会で、いじめは絶対にダメと言っても、いじめている人は、ばれなきゃいいやと思ってしまうのではないかなと思いました。自分も、いじめられるのはつらいと思うので、いじめがあったら注意をしたり、大人の人に言うようにしていきたいです。

[1組 菊地 里菜さん]

今日の授業で、本当にいじめをしてはいけないんだ!と思いました。一番びっくりしたのが、見ているだけでもいじめに加わっているということです。これから、絶対にいじめられている人を見たら、助けてあげたいです。

[1組 渡邊 由子さん]

いじめは、人の心を傷つける。いじめをしたり、見て見ぬふりをするのは絶対に「ダメ」いじめられている人を見かけたら止める、助ける、そんな人間になりたいです。 [1組 福田 みなみさん]

私は、いじめをしたこともないし、されたこともないので、あまり気にしていなかったのですが、今回のことで向き合う気になれました。そういう行動をしている人を見かけたら、先生に報告できるような行動力が欲しいです。 [2組 若山 咲緒里さん]

ただいじめを見ているだけでもいじめに加わっていることになるということは分かっていたけど、あの図をみて、被害者は、たくさんの被害者を苦しめる人たちに囲まれていることが分かった。私は、このことに対して、見ているだけでなくいじめを止める、被害者の心の「助けて」をしっかり受け止められるような人になりたい。 [2組 福田 真那さん]



いじめは、人を傷つけ、いじめられている人はそのことによって、自分の存在価値をなくし自らの命を落とす選択をしてしまうということが分かった。いじめは、犯罪だと分かった。いじめは、実行者、司令者など、被害者を取り巻く構造があって成立することが分かった。[2組 床井 千真さん]

いじめというのは、とても悲しくてみじめだということを改めて実感しました。これからは、もしそういう人がいたら見て見ぬふりをせず、きちんと注意をして、こんなことをずっとやっていたら、どうしようもないことになるということをちゃんと聞かせたいです。 [2組 鈴木 冬馬さん]

いじめを止めるには、ゆるせないという「心」と、止めに入る「勇気」が必要だと思いました。 [3組 小野 泰河さん]

いじめを絶対にしてはいけないということと、いじめを見つけたら助けるということと、これからちゃんと大切にしていきたいと思いました。自分が思っているよりもいじめられている人は苦しんでいるということを理解することができました。いじめは絶対に許される行為ではないということが本当に身にしみました。 [3組 小杉 萌々音さん]

いじめについての知識がまだまだ足りなかったということが今日の授業で分かりました。いじめの重さや認識の甘さを授業で学びました。 [3組 高柳 芽生さん]

いじめがこの世の中で一番だめだということを改めて知ることができました。 [3組 小野 寿紗さん]

いじめという罪で人が傷つき、死なせてしまうことが分かった。いじめは、どのような場所でもあると思う。いじめを止められるような人になろうと思った。いじめをなくすには、心が重要。 [4組 亀山 一さん]

被害者をいじめているのは実行者だけだと思っていたけど、図を見たときにはびっくりした。いじめられている人は、どんどんネガティブになっていく構造になっていることが分かった。人の気持ちを考えられるように努力します。 [4組 柴田 昊芽さん]

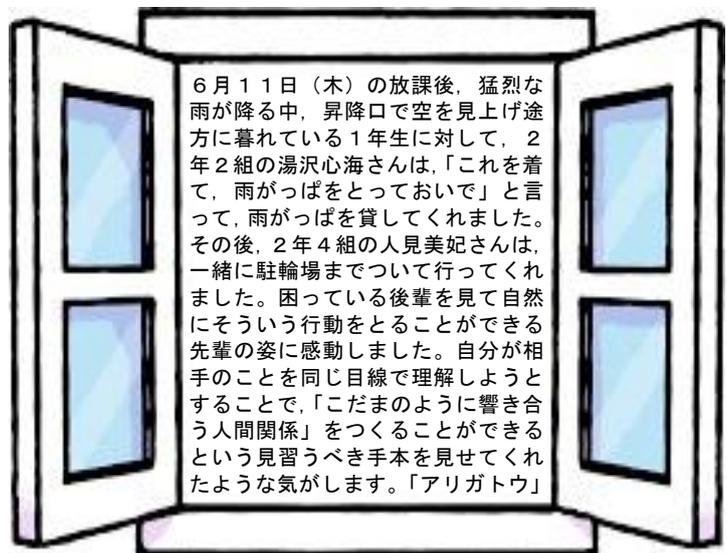
なんだか複雑な気持ちになりました。自分もいじめに加担してしまっていたかとも思いました。このような教室があっても、いじめがなくなるのは少し残念です。 [4組 竹腰 萌華さん]

最近、誹謗中傷で自らの命を落としたニュースを見て、悲しくなりました。言葉だけで人が死んでしまうのだと思いました。いじめは本当にダメということを改めて思いました。 [4組 渡邊 里泉さん]

人は、1人1人みんな違います。みんな違うから「人形」ではなく「人間」なのです。「みんな違ってみんないい」という言葉を心の底から理解できていけば、いじめは存在しないはずなのです。しかし、実際にはそう思うのは難しい。だからいじめがおきてしまうのです。自分との違いに目を向け、ひやかし、からかい、腹を立てイライラして攻撃してしまうのです。でも、1人1人が違うことをプラスにできている集団もあります。そういう集団には必ず、違う1人1人が同じ方向を向いて進んでいくことができるルールがあります。苦しいとき、迷った時、どうしたらいいのかわからなくなった時に原点に戻れるような目標があります。共通のルールや目標が設定されている集団には、安心感が生まれ、1人1人の違いは、自分にはないものを持っている個性として認められるようになるのだと思います。そして、みんながつながり成長していけるのです。各学級が、1人1人が自分らしさを発揮できるような集団になっていくことを期待しています。

## 各学級で、いじめゼロ標語をつくりました。

- 1組 気づこうよ見てるだけでもイジメだよ！助けに行けばみんな友達
- 2組 相手の気持ちを考えて必ず聴こう心の声
- 3組 「気づいてよ、言葉のナイフ突き刺さる」
- 4組 大丈夫？言える勇気で咲く笑顔



6・7月中は部活動終了が  
18:30、完全下校時刻が  
18:45になります。